

2018年度用小学校道徳教科書分析(東京書籍)

「柱」の略称:A=主として自分自身に関する事／B=主として人との関わりに関する事／C=主として集団や社会とのかわりに関する事／D=主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関する事

学年	学習指導要領の柱(A~D)と徳目		単元		観点	*上段は教材の大要(あらすじ) *下段はコメント
	柱	徳目	No.	題名		
1	B	感謝	12	みんな だれかに	「科学の目」で見るとどうか	ハチが花から蜜をもらい、花は花粉を運んでもらいお互いに感謝する。その他の例も挙げ、みんな誰かの世話になっていることを示す。 ここに出された例は共生の一つの形態である相利共生で、別にお互いに感謝し合う「道徳」的な関係ではない。科学的な見方を育てるのを妨げ、誤った自然観を育てることにつながるのではないか。
1	C	勤労	13	ぼくの しごと	人権、平和、ジェンダーの視点	母親に風呂掃除の仕方を教わり、父親にほめられる。 家庭内の仕事(家事)が母親の役割であることが暗黙の前提となっている。固定的な男女の役割分担に基づいた話。父親が家事をする場面はなく、一番風呂に入るだけなので、そのように思わせるのではないか。
1	A	善悪の判断	16	ダメ	人権、平和、ジェンダーの視点	食べるのが遅い「りすくん」は「くまくん」にプリンを食べられてしまう。翌日「りすくん」は「くまくん」にそういうことをしてはダメだと反論して仲直り。 自己主張が必要だというのはわかるが、いじめられる側に強くなければダメだ(弱いからいじめられるのだ)というメッセージになる恐れがある。
1	C	国や郷土を愛する態度	23	にちようびのさんぼみち	心の押しつけになっていないか	けんたがおじいさんと散歩に出かけ、和菓子屋を見つける。けんたは和菓子についてもっと知りたいと思う。 パン屋が和菓子屋に書き換えられて話題になった題材。和菓子で「国や郷土を愛する態度」を涵養しようとするのは安直ではないか。
2	C	よりよい学校生活	3	ひかり小学校のじまんはね	人権、平和、ジェンダーの視点	ひかり小学校2年1組の「けんたたち」は学校の自慢探しをする。校長先生が、校庭の大きなくすの木が自慢だと教える。 「学校を好きになれ」というプレッシャーではないか。「所属集団」=誇るべきもので好きにならねばならないという理屈は愛国心の押しつけにもつながる。「くすのき」が擬人化されているのも気になる。
2	C	国や郷土を愛する態度	21	ながいながい つうがくろ	人権、平和、ジェンダーの視点	長い通学路は季節によっていろいろな花が咲いたりして楽しい。 1年の「にちようびのさんぼみち」と同様の問題を抱えた題材。原文にはなかった「にほんではきせつをかんじてすくすことができるの」という母親の言葉が検定で追加され、不自然に「日本」を意識させる。
3	C	よりよい学校生活	6	しょうたの手紙	人権、平和、ジェンダーの視点	転校生の「しょうた」が1週間学校を休んだ。先生は「しょうた」からの手紙を読んだ。そこには欠席の原因がクラスのいじめにあることが書かれていた。 いじめられる側の視点から述べられていることは評価できる。しかし結局のところ、「いじめはダメだ」というわかりきった結論に終わらないか。
3	C	規則の尊重	8	きまりじゃないか	人権、平和、ジェンダーの視点	雨上がりの休み時間。校庭にはまだ水たまりが残っており、校庭で遊んではいけないことを意味するボードが出ていたが、「大助」は友達と校庭に飛び出す。「裕一」は「きまりじゃないか」とつぶやく。

2018年度用小学校道徳教科書分析(東京書籍)

「柱」の略称:A=主として自分自身に関する事／B=主として人との関わりに関する事／C=主として集団や社会とのかかわりに関する事／D=主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関する事

学年	学習指導要領の柱(A~D)と徳目		単元		観点	*上段は教材の大要(あらずじ) *下段はコメント
	柱	徳目	No.	題名		
3	C	規則の尊重	8	きまりじやないか	人権、平和、ジェンダーの視点	結論は「ほうか後は、きっと遊べるよ」であり、「決まりを守っていればよいことがある」ことになっている。「決まり」の存在理由を考えたり批判的に検討したりする力をつけることにはつながらない。
3	D	生命の尊さ	26	百羽のツル	「科学の目」で見るとどうか	渡りの途中、病気の子どものツルが気を失って落ちていく。すると群れのツル全羽がそのツルをまるで曲芸のような行動で助ける。 実際のツルがこのような行動を取るはずがなく、ありえない話で感動させようという、いかにも道徳のための無理な擬人化である。荒唐無稽な話で「生命の尊さ」に導くのは大いに問題である。
3	C	国や郷土を愛する態度	33	ふるさといとこさがし	人権、平和、ジェンダーの視点	「いいところ」がないと思っていた自分の街だが、おじいさんが「この町のそばはおいしくて有名だ」と教えてくれる。調べてみると他にも「いいところ」があることがわかる。 郷土愛・高齢者・伝統文化の3点セットから成る予定調和的題材。3年生には社会科があるが、社会科と道徳科が矛盾することがあるというお手本のような題材。
3	A	努力と強い意志	34	まけるものか～野口英世	いじめ問題の扱い	左手のやけどをからかわれて不登校になった清作(野口英世)だったが、母に諭されて翌日から登校し、歯を食いしばってがんばる。 いじめられても学校へ行かねばならないというメッセージになっている。いじめられている子どもをさらに追い込むことにならないのではないか。野口英世の古めかしい一面的な美化で、いかにも古めかしい。
4	A	努力と強い意志	2	ぼくのへんしん	人権、平和、ジェンダーの視点	体育が苦手で嫌いだった「ぼく」は、母親の忠告でがんばることを決意し、テレビ体操を始める。その結果、鉄棒の技ができるようになる。 体育が苦手ではなぜいけないのか。目的合理性の検討を欠いた根性論になっている。
4	C	国や郷土を愛する態度	8	ふろしき	人権、平和、ジェンダーの視点	「わたし」は母から風呂敷のさまざまな使い方を教えられ、日本の古いもののよさを知る。 いまどきこのような母親はかなり例外的だろう。「日本の古いもののよさ」に強引に結論を導いている。
4	D	生命の尊さ	18	バルバオの木	心の押しつけになっていないか	何十万年も生きてきた「バルバオの木」は気候が変わって苦しむ動物たちに自分の実や葉や幹まで提供して救い、自らは死ぬ。 自己犠牲の美化につながりかねない。「捨身飼虎」を思わせる仏教的な「善」なのではないか。そうだとすると、特定宗教に基づく道徳観を示していることになる。
4	C	国や郷土を愛する態度	20	ふるさとを守った大イチョウ	人権、平和、ジェンダーの視点	東京都墨田区の飛木稲荷神社の大イチョウがあったおかげで、東京大空襲の際、火災は食い止められた。現在は「故郷を守った大イチョウ」として墨田区の指定天然記念物として大切にされている。 「平和教材」にもなりうる点は評価できる。しかし東京大空襲が自然災害であるかのように描かれているのは気になる(「爆弾が落とされた」との記述はあるが)。

2018年度用小学校道徳教科書分析(東京書籍)

「柱」の略称: A=主として自分自身に関する事／B=主として人との関わりに関する事／C=主として集団や社会とのかかわりに関する事／D=主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関する事

学年	学習指導要領の柱(A~D)と徳目		単元		観点	*上段は教材の大意(あらすじ) *下段はコメント
	柱	徳目	No.	題名		
4	D	公共の精神 勤労	34	点字メニューに ちょうせん	人権、平和、ジェンダーの視点	<p>「のり子」の家は食堂。ある日、目の不自由なお客さんが来たので、メニューを全部読み上げてあげた。「のり子」は点字メニューをつくることを思いつき、点訳の仕事をしている「小林さん」の指導で点訳メニューを完成させる。</p> <p>善意に基づく行為であることはわかるが、「点訳の仕事をしている」(つまりそれによって収入を得て生活している)「小林さん」に無償で仕事をさせているのではないか。労働＝奉仕ととらえている。</p>
5	B	感謝	1	「ありがとう 上手」に	心の押しつけになっていないか	<p>洞爺湖へのバス旅行に行った「わたし」は、たくさんの中学生が一人ひとり、降車の際に運転手に「ありがとうございます」というのを聞いて「ありがとう上手」になって誰にでも、さら自然にも感謝しようと決意する。</p> <p>大人が書いた文という設定だが、それにしても内容が「ありがとう上手」になりたいとは発達段階を考慮しても稚拙ではないか。自然にも感謝して心が落ち着くというのは、自然を擬人化した特定の(宗教的な)ものの見方にも通じる。</p>
5	C	公正、公平	8	転校生が やってきた	いじめ問題の扱い	<p>いじめを受けていた「ぼく」は、「くつかくし」をされる。同様の経験をしていた転校生「琢馬」がクラス会でそれを「卑怯だ」と述べてクラスの雰囲気が変わる。</p> <p>正しいことを「正しい」と言えば(それも大切だが)、いじめはなくなるかのように述べている。</p>
5	C	規則の尊重	14	これって「け んり」？ こ れって「ぎ む」？	人権、平和、ジェンダーの視点	<p>権利と義務についていくつかの問題を解いた後、「学習発表会」の役割の割り振りについてクラスで議論する。</p> <p>検定意見でまるまる差し替えられた題材。そのため他の題材と形式がまったく違っている。権利と義務がセットであることを強調し、権利が衝突したときの問題解決策を問う。「公共の福祉」による権利制限が主眼になっており、権利には第一義的な重要性が置かれていない。</p>
5	C	家族愛	16	お父さん のおべんとう	人権、平和、ジェンダーの視点	<p>「お母さん」は虫垂炎で入院、退院前に遠足がある。ふだん仕事で遅くにしか返ってこない「お父さん」が弁当をつくってくれる。</p> <p>一見ほほえましい題材だが、しかしこの話は、母親が専ら家事、父親は外で仕事という性別役割分担があってはじめて成立する。</p>
5	C	伝統と文化の尊重	25	正月料理	心の押しつけになっていないか	<p>正月料理を紹介し、それらには健康と長寿を願う日本人の心が込められていることを述べる。</p> <p>なぜことさら「日本人の心」を強調するのか。「健康で幸せに、そして長生きしたい」のは日本人だけではないだろう。</p>
5	C	国際理解、国際親善	31	同じ空の下 で	人権、平和、ジェンダーの視点	<p>言葉や文化は違っても、同じ思いを持った子どもが世界中にいる。食料不足の影響をいちばん受けるのは子どもだ。食べ物がなくて死んでしまう子どもがいることをどう思うかを問う。</p> <p>平和教材として使えるような内容として評価できる。できればさらに「子どもの権利条約」にも踏み込んでほしい。</p>

2018年度用小学校道徳教科書分析(東京書籍)

「柱」の略称:A=主として自分自身に関する事／B=主として人との関わりに関する事／C=主として集団や社会とのかわりに関する事／D=主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関する事

学年	学習指導要領の柱(A~D)と徳目		単元		観点	*上段は教材の大要(あらすじ) *下段はコメント
	柱	徳目	No.	題名		
6	B	親切	7	車いすでの経験から	人権、平和、ジェンダーの視点	<p>去年の夏、足を骨折して入院した。そのときに車いすを使い、いろいろな人から親切にされた経験から、他人に親切にできるようになった。</p> <p>障がい者の権利という視点がないのではないか。車いすをエスカレーターに乗せるのは危険な行為なのではないか。車いす用のエレベーターやエスカレーターにリフトが必要であるのに、それらが不備であることにはまったく触れていない。家の近くの駅まで2時間もかかったのは、そうした問題のせいであるだろうに。</p>
6	C	国際理解、国際親善	8	白旗の少女	人権、平和、ジェンダーの視点	<p>沖縄戦末期、白旗を掲げて助かった少女が1988年、撮影者に会い、悲惨な戦争体験を語り継ごうと決意する。</p> <p>有名な実話で、平和教材としても定着している題材。道徳なので、このような悲惨な体験を強いた日本軍について述べられていないのが惜まれる。</p>
6	C	規則の尊重	11	ピアノの音が…	人権、平和、ジェンダーの視点	<p>埼玉県のあるマンションでピアノの音をめぐるトラブルを話し合いで解決した経験。</p> <p>「決まり」をつくるプロセスに触れた数少ない題材としては評価できる。しかしこれも私人同士の権利の衝突の解決が主題となっている。</p>
6	C	伝統と文化の尊重	24	新しい日本に～龍馬の心	心の押しつけになっていないか	<p>新しい日本をつくるために奔走する坂本龍馬の姿を描く。</p> <p>通俗的な見解に基づく龍馬の過大評価ではないか。歴史学の知見と整合性は取れるのか疑問である。明治維新150年を意識した題材で、日本近代史の美化につながりかねない。</p>
6	B	相互理解	26	銀の燭台	人権、平和、ジェンダーの視点	<p>『レ・ミゼラブル』より。銀の燭台を盗んだジャン・バルジャンを捕まえた憲兵たちに対し、ミリエル司祭は「差し上げたものだ」と言い張る。</p> <p>ミリエル司教の対応は、明らかに「法」を逸脱している。「法や決まりを守れ」というこれまでの主張とどう整合性をつけるのだろうか。すぐれた文学作品を道徳の題材にすることに無理があるのではないか。</p>

小学校道徳教科書分析

学 年	学習指導要領の 柱(A~D)と徳目		単元		観点	*上段は教材の大意(あらずじ) *下段はコメント
	柱	徳目	No.	題名		
一 年		感謝	4	がっこうに はね	心の押しつけに なっていないか	<p>学校探検をしながら、どんな人たちが学校で働いているかを調べる。お世話になっている人たちに手紙をかきたくなる。</p> <p>学校ではどのような人たちが働いているのかというのは生活科との関連であることは分かるが、お世話になっているから、感謝のお手紙を書こうというのは安直すぎないか。</p>
			9	うかんだ うかんだ	心の押しつけに なっていないか	<p>プールで首までしか入れなかったのに、こわい気持ちもがまんして、毎日練習し、やがて浮かべるようになり、みんなからも拍手をもらった。</p> <p>どうしようもなく水がこわい子がいるもの。努力することは大切だが、水泳ができるようになるためには、合理的な練習方法があるのにも関わらず、こわさに打ち勝つ強い心がないという根性至上主義になっていないか。 <i>いけない</i></p>
			18	かぼちゃの つる	「科学の目」で見 るとどうか	<p>迷惑も考えず、人の通る道や人の畑にかまわずどんどんつるを伸ばすかぼちゃ。トラックがやってきて、かぼちゃのつるを切ってしまった。</p> <p>欲張るとこうなるということなのだろうが、かぼちゃがつるを伸ばすのは、たくさんの実を付けて子孫を増やそうという生物としては当然のはたらき。生物の仕組みを無視した無理な擬人化ではないか。</p>

学年	学習指導要領の柱 (A~D) と徳目		単元		観点	あらすじ (上段) コメント (下段)
4	B	思いやりの心	3	なにかお手伝いできることはありますか	心の押し付け	<p>目の不自由な方へのお手伝い駅で見かけた目の不自由な女性に福祉体験教室で学んだことを実践する話。</p> <p>目の不自由な方はみな階段にぶつかるとも読み取れる。いきなり「端っこにぶつかります。僕につかまってください。」の言葉掛けは不自然。まずは、題名にある言葉を掛けることが必要ではないか。</p>
4	C	わかり合う心	6	合い言葉は「話せばわかる！」	国際間の文化の相違	<p>外国から来たトムがそうじをしなかったことを帰りの会で話題にしたことでそうじをするようになる。</p> <p>そうじの仕方を教えてあげようの言葉掛けで問題が解決しているが、果たしてそうじの仕方がわからなかったことが問題の本質なのか。宗教などの問題で取り組まない事柄に関しても、子供たち同士で話し合えば解決できるとも読み取れる。</p>
4	A	努力と強い意志	10	いっしょになって、わらっちゃだめだ	いじめ問題の扱い	<p>級友がサルと呼ばれてからかわれているとき、教室からぼくが出たことですぐに問題が解決する。</p> <p>いじめの最中にその場からいなくなることで問題が解決することが不自然。「やめろ」と言うとき自分がいじめの対象になることへの配慮だと思うが、設定が安易。</p>
4	C	協力し合って楽しい学校生活	23	秋空にひびくファンファーレ	心の押し付け	<p>小学校のジュニアバンドの発表の日、いすを拭いていた山口さんから演奏が小学校のみんなを元気にしていると声を掛けられ町中に届くように元気</p>

						<p>にトランペットを吹く話。</p> <p>町の人の中には、トランペットの音をうるさいと感じている人もいる可能性があることに触れていない。自分が頑張っていることは、みんなが応援してくれていると安易にとらえやすい。</p>
4	B	友だちと信頼し合う	29	大きな絵はがき	心の押し付け	<p>友だちから送られてきた絵葉書の切手代が不足していてそれを手紙で教えてあげることを選ぶ話。昔からある題材。</p> <p>SNS が主流の今、題材が少々古く感じる。絵葉書代を不足していることを教えることは構わないが、今の時代、それをどのような言葉や手段で教えるかが問題になっているように思う。相手との信頼関係の深さも関わってくると感じる。</p>

学年	学習指導要領の柱 (A~D)と徳目		単元		観点	上段は教材のあらすじ 下段はコメント
	柱	徳目	No.	題名		
5	D	美しいもの、崇高	7	ひさの星	命がけの行動の価値	昔の話。無口だが、とても優しい心根をもった10歳ほどの女の子ひさ。大雨の日、命がけで近所の男の子(政吉)を助け、自分は水に流されて死んでしまう。近所の人ひさが男の子を危ない目に遭わせたと勘違いしてひさの家に怒鳴り込んでくるが、後に朝方川つぶちのホテルをとろうとして川に落ちた政吉をひさが川に飛び込んで助けたことが人として相手のことを思い、できる限りのことをしようとする気持ちは崇高かもしれない。しかし、ひさが、男の子を助けようとして飛び込んだことを美化し、自分ことを顧みず命がけで助けたことが非常に尊いこととして語られている。
5	C	法やきまり、権利義務	14	これって「けんり」？これって「きむ」？	権利と義務	前半は、学校の日常生活の具体的な場面の中で、権利や義務について考えさせる内容。後半は、短いお話となる。学習発表会で主役を決める際、みんなから推薦された主人公の男の子は、自分の習い事との兼ね合いで、迷ったあげく主役を断る結論に至る。しかし、そのことを級友たちから自分勝手などと責められる。後半に掲載されている短いお話が、自分のやりたいことがあっても、みんなのために頑張ることこそが、価値のあることなのだという結論に導いていくような結末になっている。さらに、教科書の最後に掲載されている問いも、「学習発表会を成功させるために、クラスみんなにとってだいじなことはなんだろう。」と問いかけられている。
5	C	家族愛	16	お父さんのおべんとう	人権、平和、ジェンダーの視点	「お母さん」は虫垂炎で入院。退院前に遠足がある。遠足の日の弁当のことを忘れていた主人公の男の子は、お父さんにそのことを言われ、パンを買ってくることにする。ついでに朝ご飯用のパンも買う。遠足の日の朝出かけようとすると、お弁当用のパンがなくなっている。お父さんが誤って食べてしまったのだ。お父さんは、男の子をびっくりさせようとこっそりお弁当を作ってあげていたのだが、男の子は、パンを食べられたことに対する怒りからお父さんのお弁当はいらないと拒否する。しかし、その後自分の行動を後悔し、自分のことを思うお父さんの優しさを感じ、急にお父さんの作ったお弁当を食べるお昼のことが待ち遠しくなる。話の展開自体にやや無理があるように感じられる。お父さんが主人公に弁当のことを話し、パンを買ってくることがわかっていたはずなのに、それをわざわざ食べてしまった上、遠足の日の朝、台所を見に来た男の子を「向こうへ行つてなさい。」と怒ったように追い払った後、これをもっていきなさいと弁当を渡す展開は話の内容として不自然さを感じる。男の子の心情が激しく変化し、父親の行動に対して怒っていたかと思うとと思うとすぐに自分の行動を反省し、あっという間に父親に対する感謝の気持ちに変わる展開にもかなり無理があるように感じる。



## 「新しい道徳 6年生」について

### No1 心を形に

わたしたちの北小学校では、六年生が中心になって、毎週月曜日、あいさつボランティア活動をおこなっている。今週は、わたしと、同じクラスの友人四人がたんとうしている。

ボランティア活動といいつつ担当者の当番が決まっていることに違和感。

### No8 白旗の少女

白旗を持たせたおじいさん・おばあさんの気持ちを問う発問もあった方が理解が深まるのではないか。

面会を持って、沖縄戦が終わった訳ではないと考え、語りつく決意をした作者の意思を考えさせたい。

### No10 ばかじゃん！

いじめの解決を、当事者当事者のみの話し合いで解決しているが、間で見守る人のいないことの危険性があり、あまりに善意だより

### No11 ピアノの音が…

個人の権利の衝突を、当事者のみの話し合いで解決しているが、間で見守る人のいないことの危険性があり、あまりに善意だより

### No18 言葉のおくりもの

ひやかされて、相手をさけるようになった自分と、さけずに昔の関係にもどろうという相手の違いから考えさせると良いのではないか。(褒め言葉のシャワー)

### No19 お母さんへの手紙

重い心臓病でなくなった主人公の母親への手紙から、自分なら何を学び感じたかを率直な感想を互いに交換すると良いのではないか。

### No21 田中正造

田中正造が何度国会で演説をしても、問題にしなかった当時の政府や他の国会議員とその支持者の方が多数派だったこと。天皇への直訴のことが報道されたが、解決策が谷中村の住民を集団移転させた国。田中正造と村の住民の思いを無視した側についても考えさせるべきではないのか。

### No22 せんぱいの心を受けついで

学校の伝統として続けられているキクづくり。二十周年とか、委員の責任とか、教師からの働きかけがあるが、疑問を持ちやりたくないという考え方もあるのが当然ではないか。

### No23 義足の聖火ランナー

平和のために何かできることがしたいと考え、地雷を取りのぞく活動をしている団体に入った主人公が、地雷で手足をなくしても、マラソンにチャレンジすることを通して基金を集めることから、学び感じ取ることは大切だが、地雷の設置費用の安さなどから、地雷がなくならないことについても、考えさせるべきではないか。

### No24 新しい日本に

明治維新を薩長同盟の側だけが正当であるという見方を植え付ける危険性。

### No30 東京大空襲の中で

東京大空襲の中、命を守ろうとする医師・看護師の姿から学ぶ教材だが、「No9 土石流の中で救われた命」の警察官とともに、職業のプロ意識の問題とされてしまう危険性。

(「No33 小さな連絡船『ひまわり』」の航海士も同様)

せつかく戦争を扱う教材だが、戦争の残酷性・非人間性について考えさせる教材としては弱い。